

平成24年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	教育研究事業						担当部	教育委員会事務局							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	学校教育課							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	学校教育係							
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		16 学校教育		2 教育力を向上させる									
		副目的														
	予算区分	款	10		項	1		目	3		大	7		中	2	
	根拠法令・個別計画															
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	49 %			委託	51 %			助成	0 %					
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	学内の連携の強化と新しい時代に向けた学校づくりを目指し、学び合う学びの充実を目指す。														
	内容 (手段)	<p>○新しい時代の学校づくり、魅力ある学校教育を実現するため、拠点校を定め研究委嘱をし、テーマに沿った調査研究を行った。</p> <p>・学習指導事業(市単独事業 2校):テーマに沿って、研修、研究会、公開授業等を行った。(委託料:100万円)</p> <p>大城小学校 テーマ「学力の定着に関する研究」</p> <p>桃陵中学校 テーマ「自ら学び、よく考える生徒の育成～学び合う学びの授業と心通い合う人間関係を通して～」</p> <p>・夢をはぐくむあいち・モノづくり事業(県委嘱事業 1校)(委託料:10万円)</p> <p>陶小学校</p> <p>地域のモノづくりの達人から技と生き方、働くことの楽しさを学んだ。</p> <p>(体験内容:陶芸、新聞づくり、ダンボール工作、宇宙を学ぶ(ロケット作品づくり)、フラワーアレンジメント)</p> <p>○IT活用調査研究事業:各小中学校において情報モラル授業を実践した。また、外部講師を招いて情報モラル講演会をおこなった。(委託料:14.3万円)</p> <p>【直接経費】</p> <p>研究委嘱委託 (1,100千円)</p> <p>IT活用調査研究委託(143千円)</p> <p>消耗品費(679千円)</p>														
受益者負担	無															

		単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	2,719	3,203	1,922	3,964	
		正職員	従事者数	人	0.10	0.10	0.10	0.10
			人件費	千円	531	531	531	531
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計	千円	3,250	3,734	2,453	4,495	
	対前年比	%		114.8	65.6	183.2		
財源	一般財源	千円	2,450	2,256	2,353	2,495		
	国・県支出金	千円	800	1,478	100	2,000		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	市内小中校数	校	目標		—	—	—
実績				25	25	25	
		目標		—	—	—	
		実績					
		目標					
		実績					
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	研究委嘱校数	校	目標		—	—	—
実績				3	8	3	
		目標					
		実績					

事業の自己評価	平成23年度の実施結果	事業の達成状況	学習指導事業(2校)は、教員の指導力向上、子どもたちの基礎学力向上など、実施内容が学校のニーズにあったものであり、授業づくり、学校力の向上につながった。実施時期や期間を考慮し、効率的な実施に努めた。夢をはぐくむあいち・モノづくり事業(県委嘱事業 1校)では、モノづくりの達人と身近に接し、楽しく体験することにより、子どもたちに生き方や働くことの楽しさを伝えた。
		事業実施における課題等	授業づくり、学校力向上の観点から、さらなる学内および学校間の連携強化が必要。
		事業を縮小・廃止したときの影響	外からの情報・視点を欠くことで、取組みが内向きになり、指導方法の工夫の発展性が減少するなどの弊害が生じる。
今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持	
	判定理由	研究を通じた各学校の取組みは児童生徒の有意義な授業に直結することから、現状維持と判断した。	
	改善案等	授業づくり、学校力向上の観点から、さらなる学内および学校間の連携強化をはかる。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	一次評価のとおり。